

農業会議だより

第51号（令和6年9月）発行：一般社団法人佐賀県農業会議

1. 臨時総会で新理事を選任
2. 農業委員会会長・事務局長との意見交換会を実施
3. 佐賀県農業委員会女性協議会第16回総会を開催
4. 地域計画の策定推進（進捗状況を含む）について
5. 農地利用状況調査（農地パトロール）の取り組みについて
6. 農業委員会サポートシステム活用促進に係る研修会を開催
7. 農業簿記講習会を開催
8. 唐津市農業委員会の取り組みについて
9. 農業者年金の加入推進について
10. 全国農業新聞普及推進・全国農業図書紹介
11. 常設審議委員会の結果（7・8月）
12. 行事予定

1. 臨時総会で新理事を選任

8月30日に臨時総会（書面議決）を開催し、新理事として武雄市農業委員会会長の岩橋久美氏が選任されました。

	氏名	所属・役職
新任	岩橋久美	武雄市農業委員会・会長
退任	佐佐木幸夫	武雄市農業委員会・元会長



2. 農業委員会会長・事務局長との意見交換会を実施

令和6年7月から8月にかけて、各市町農業委員会の会長・事務局長を農業会議専務理事・市町担当職員が訪問し、農業委員会の活動や課題、さらには、地域農業の課題等について、意見交換を実施しました。

意見交換で出された意見については、各農業委員会から報告のあった「農業者等との意見交換会に係る意見」とあわせて、「令和6年度農地利用の最適化の取り組みを強化するための意見書」として取りまとめ、今後、県に対して提出を予定（10月頃）しています。

【全体意見】

燃油・肥料・農薬の価格高騰が続き、農家の経営は大変厳しい状況です。農家の高齢化に伴い、担い手や集落営農の構成員の減少が続き、規模の大きい農家の後継者がいないところもあります。これからの地域農業の維持に大きな不安があり、今後は、担い手の育成、特に、トレーナー制やトレーニングファームの取組など新規就農者の確保・育成にも力を入れていくとともに、家族経営など多様な担い手を地域農業にどのように取り込んでいくのか検討をしていく必要があるなどの意見がありました。

中山間地域においては、「担い手の高齢化や減少により、農地の受け手が見つからない。」、「イノシシの農作物への被害により、営農意欲が大きく減退している。」、「耕作放棄地をこれ以上は増やしたくないが、なかなか難しい。」など厳しい意見が多く出されました。地域ごとに『守っていく農地』を明確化する農地のゾーニングの展開や、担い手が不足している地域には、他の地域の大規模農家の参入や企業参入などの検討も必要となる。」、「露地みかんの価格がひと昔前より上昇している状況であり、もう一度、区画整理や農道・園内道の整備などの土地改良事業を検討していく。」などの意見もありました。

さらには、「資材価格等の高騰を農産物価格に反映できるような制度や法律改正が必要である。」また、「農村地域の機能を維持していくためには、定住や移住の促進が重要となってきている。」との声もありました。

このように、農業委員会活動の重要性は増しているものの「それに対応できる事務局体制とはなっていない。」、「事務局職員数の充実強化が必要。」との意見もありました。

【農地利用最適化活動】

農地パトロールについては、全市町で計画的に行われているものの、日頃の活動日誌の記載が月8回を下回るころもありました。

その要因としては、「日誌の様式が複雑で書きづらい。」、「まとめて書こうとしているが、書く段階で忘れてしまう。」、「農業者と話をしなければ、日誌に書けないと思っている方がいたが、農地の見回り活動だけでも書いてよいと指導している。」などの意見があり、今後は「様式については簡易な様式を検討していく。」、「軽トラックに日誌等を乗せ、活動したその時に記入するように、次回の委員会で話していく。」、「日誌に記載する文章例を明示して、書きやすい方法を検討する。」、「毎月の農業委員会で日誌を提出してもらい、適宜、書き方等について事務局よりアドバイスをする。」など、それぞれの農業委員会の実態に応じて検討していくことを確認しました。

【女性農業委員の登用促進】

農業委員会に多様な意見を反映し、活動を活性化するため、女性委員の登用について、意見交換を行いました。「委員会において、女性ならではの意見を出されるなど幅広い議論に繋がっている。」「女性委員は一人ではなく複数人になれば、意見が出やすく、活動も活性化する。」「農業委員の改選時に女性委員の候補者を見つけ出すのは難しい。2～3年前から会長や事務局が、各団体や地域へ働きかけていく。」「農業委員は無理でも、推進委員への女性の登用から始めてはどうか。」などの意見があり、地域の実情に即した登用の方策を検討していくことを確認しました。

【全国農業新聞の推進】

農業委員・推進委員には、最新の農業情勢や農業施策を農業者に伝えていく重要な役割があることから、全国農業新聞の農業委員・推進委員の皆購読を進め、農地の最適化活動や担い手・新規就農者の育成活動に取り組んでいくことを確認しました。

【その他】

市町農業委員会の予算確保を要請するとともに、農業者年金の加入促進についても、引き続き、取組の強化をお願いしました。

令和6年11月20日・21日に開催する「九州・沖縄ブロック農業委員会女性委員研修会」や令和7年1月22日・23日に開催する「第26回全国農業担い手サミット in さが」への協力を要請しました。

3. 佐賀県農業委員会女性協議会第16回総会を開催しました

佐賀県内の女性農業委員・農地利用最適化推進委員で組織する佐賀県農業委員会女性協議会（会長：武雄市 岩橋久美）は、8月22日（木）に佐賀市で第16回の総会を開催し、下記の事項について承認されました。

議案

第1号議案 令和5年度事業報告及び収支決算の承認について

第2号議案 役員を選任について

第3号議案 令和6年度事業計画及び収支予算（案）について

第4号議案 令和6年度会費の額及び納入時期について

なお、役員は次の通りです。

役 職	氏 名	市町名	備 考
会 長	岩橋 久美	武雄市	再任
副会長	原 久美子	多久市	再任
副会長	池田 美由紀	有田町	新任
監 事	太田 幸代	みやき町	新任
監 事	松永 久美子	伊万里市	新任

「九州・沖縄ブロック農業委員会女性委員研修会を開催します。」

毎年、九州・沖縄各県を持ち回りで開催している標記研修会について、今年は11月20日（水）～21日（木）に佐賀市「ホテルマリターレ創世」で開催します。九州・沖縄各県の女性農業委員・推進委員と事務局職員が一堂に会し講演会や情報交換会等で親睦を深めます。内容は次の通りです。

【1日目】

1. 開会行事 主催者挨拶、来賓祝辞等
2. グループワーク 「農業委員会活動について話し合おう」
3. 講演 「農業委員会活動と女性委員の役割について」
講師 全国農業委員会女性協議会会長
埼玉県秩父市農業委員会会長 横田 友 氏
4. 情報交換会 佐賀弁ラジオ体操やプレゼント抽選会、カラオケ大会などで盛り上がります。

【2日目】

5. 情勢報告 全国農業会議所 農地組織対策部長 堀江光正氏
6. 研修 「これからの女性活躍と地域活性化の展望」
講師 武雄市レクリエーション協会会長 森 恵美氏
7. 閉会

**女性農業委員・推進委員の皆さん 精一杯のおもてなしで
研修会を成功させましょう。**

4. 地域計画の策定推進（進捗状況を含む）について

令和6年7月から8月にかけて開催した農業委員会会長・事務局長との意見交換において、地域計画の状況について状況を聞き取りました。

地域計画については、現況地図を策定中のところやアンケート調査を反映した地図が作成済みのところ、また、第1回目の話し合いをしている段階のところ、さらには、第2回目の話し合いで貸借の交換による農地の集約化の検討を進めているところなど、進捗のステージに大きく差（図参照 県農業経営課作成）はあるものの、12月までには全地区での話し合いや目標地図の作成を終え、令和6年度末までに公告を完了していくことを確認しました。

地区で出された意見としては、「10年後の担い手は今決められない。」「農地の集約化は必要だが、地域の中では貸借交換に異論がある人もいる。」「担い手が不足する中では、現在の農家で農地を守っていくしかない。」「中山間地域では農地を維持していくことで精一杯。耕作放棄地までは手が回らない。」「集落営農組織の構成員が減ってきており、今の農地をいつまで耕作できるか不安。」「規模の大きい農家が怪我や病気で営農を中断・離農されたとき、誰が引き受けてくれるのか不安。」「農地転用を考えられている農地については地域計画に入れるのか、外すのか判断に迷う。」「地域計画の話し合いを今やっているところ。若い世代が話し合いに来ないので将来が描きにくい。若い世代を集めた意見交換を行いたい。」「担い手や農地面積の減少が続いており、これまで整備した共同乾燥調整施設や集出荷施設の運営が大変厳しくなるのではないか。」「揚水ポンプやパイプラインの再編統合や大型機械の離合が可能となるような農道の拡幅などの土地改良事業の検討も必要。」など様々な意見がありました。

こうした状況を地域の中で「見える化」・「共有化」し、今後も、毎年、実施される地区別の話し合いの中で、地域の実態に応じた農地の担い手への集積、さらには、貸借の交換による農地の集約化につなげてほしいところです。

特に、担い手が大幅に不足している中山間地域については、「守るべき農地」のゾーニングの検討や、農道や水路の維持管理の担い手をどうしていくべきかを検討するなどして、農村機能の維持を目指した地域計画づくりも必要です。

地域計画を検討していく上では、市町の職員をはじめ、農業委員や農地利用最適化推進委員の方々が、地域の話し合いに積極的に参画するするとともに、JAや土地改良区等とも連携を深めていくことにより、見えてきた課題を1つずつ、解決に向け、取組を進めていくことが重要です。引き続き、力をあわせて頑張っていきましょう。

5. 農地利用状況調査（農地パトロール）の取り組みについて

農地利用状況調査（農地パトロール）は、遊休農地の発生防止及び解消対策、農地の違反転用発生防止対策を図るため、農業委員会が農地法に基づいて、管内すべての農地の利用状況を毎年調査する義務づけられた業務で8月～9月に掛けて実施いただきますようお願いします。



調査手法については、農地台帳の情報及び地図等を利用しながら農地一筆ごとに、道路からの目視で農地の利用状況について確認をお願いします。また、タブレットの現地確認アプリを用いて調査結果を入力できるようになり、調査の効率化を図ることが可能となりました。

さらに、利用状況調査の結果、耕作者が不在または不在となるおそれのある農地の所有者に対して農地の利用意向調査を実施し、農地の利用意向を確認する必要があります。

農業委員会の活動を目に見えるものとし、地域農業の活性化を図るためにも、利用状況調査（農地パトロール）の取組みをより一層強化していただきますようお願いいたします。

6. 農業委員会サポートシステム活用促進に係る研修会を開催

農業会議は、農業委員会サポートシステムの最新化に向けて操作方法を習得するとともにタブレットとの連携や目標地図の作成方法等を習得する目的として7月30日、31日に佐賀市でシステム研修会を開催し、農業委員会職員等60名が出席されました。



最初に全国農業会議所の大川真司氏より、同システムの概要と操作方法、タブレットによる現地確認、意向把握、活動記録との連携等について説明。この後、実際にパソコンを用いた基本操作及び目標地図の作成、活動記録簿について研修を行いました。

参加者からは「今回の研修でサポートシステムの操作で分からなかったことが解決できた。」「目標地図を作成していく上でサポートシステムを活用していきたい。」などの感想が聞かれました。

7. 令和6年度農業簿記講習会を開催

農業会議では、毎年度、農業経営者の経営改善・発展に資するため、パソコンを活用した複式農業簿記講習会を開催しています。

今年度は8月2日から9月6日までの間、週1回のペースで全5回実施。市町農業委員会や地域農業振興センター等を通じて農業者に参加を呼びかけ、22人が受講しました。



初回は青色申告のメリットや複式簿記の基礎等についての座学、2回目以降は簿記ソフトを使用し、例題をもとに期首貸借対照表の作成、日常の取引の仕訳、決算修正の演習を行い、その結果できあがった決算書と確定申告書の解説を行いました。

当会議では、このほか、県内のトレーニングファーム研修生に対しても簿記講習会を実施し、経営支援を行っています。

経営に役立つ農業簿記関係テキスト



規格 A4判・135頁
定価(税込) 1,700円



規格 A4判・176頁
定価(税込) 3,300円



規格 A4判・234頁
定価(税込) 2,200円

8. 唐津市農業委員会の取り組みについて

(1) 唐津市農業委員会の体制

農業委員 19 名、農地利用最適化推進委員 34 名（任期 R5.4.11～R8.4.10）

(2) 唐津市の農業の特色

唐津市は、松浦川流域の水田農業地帯、天山山麓を中心とする果樹農業地帯、上場地域を中心とする畜産・畑作地帯に大別され、各地域の特色を生かした多様な農業が展開されています。

主な品目としては、日本一の生産量と高い品質を誇るハウスみかんをはじめ、佐賀県一の産出額を誇る露地みかん・葉たばこ・肉用牛・肉豚・いちご・小葱等があり、きゅうり・たまねぎ・乳用牛等も県内の上位に位置しています。



【唐津市浜玉のひれふり団地】
ハウスミカン等を生産する約23haの施設園芸団地

(3) 唐津市農業委員会の活動

市域面積が約486.6km²と県内最大の広さの唐津市は、中山間地域に属する集落や農地も多く、推進委員一人あたりの担当地域が広くなります。

そのため、地域に密着しつつ委員同士の協力と交流を図る目的で、地区担当の推進委員と総括を担当する農業委員による活動班（10班）を編成しています。

毎年の利用状況調査では、旧市町村単位で会議を行いスケジュールや各委員が担当する範囲を調整（農業委員も調査に従事）、調査の開始後は進捗状況や調査方法の疑問、気付き等を活動班の仲間で共有して円滑な実施に努めています。



【地域計画の地元話し合い】
小規模での話し合いはスムーズに進みます

唐津市の地域計画は、区域の設定を画一的な条件ではなく、地域の実情に応じて分けることとしましたので、集落単位の所から校区単位の所まで144の計画を策定予定です。話し合いの回数も非常に多くなるため、事務局と緊密に連絡を取り、全委員が手分けして話し合いの場に参加することとしています。

9. 農業者年金の加入推進について

◆ 4月～7月新規加入状況

市町名	R6 目標	計	達成率	市町名	R6 目標	計	達成率
佐賀市	8	4	50%	吉野ヶ里町	1	0	0%
唐津市	12	1	8%	基山町	1	0	0%
鳥栖市	1	0	0%	上峰町	1	0	0%
多久市	1	0	0%	みやき町	1	0	0%
伊万里市	4	0	0%	玄海町	2	1	50%
武雄市	2	0	0%	有田町	1	0	0%
鹿島市	3	2	67%	大町町	1	0	0%
小城市	3	0	0%	江北町	1	0	0%
嬉野市	2	0	0%	白石町	7	4	57%
神崎市	2	0	0%	太良町	3	2	67%
				合計	57	14	25%

☆目標「1委員・1期・1人以上の新規加入者を確保」

農家の方が老後生活に困ることがないように、農業者年金の加入推進をお願いします!!

◆ 令和6年度農業者年金加入推進特別研修会を開催

農業者年金基金・JA中央会・当会議の共催で、7月25日に佐賀市において「令和6年度農業者年金加入推進特別研修会」を開催し、加入推進部長、農業委員・推進委員、担当職員等約130名が参加されました。

講演では、西田FP事務所(佐賀市川副町)代表、ファイナンシャルプランナーの西田凌氏より、長生き時代の到来により老後資金準備の必要性が高まっており、資産運用でインフレから資金を守りながら増やしていくことや終身年金を手厚くすることが重要であり、農業者年金は老後資金の最適な選択肢であるという説明がありました。



理事長賞を受賞された
JAさが(左)と白石町農業委員会(右)



西田ファイナンシャルプランナーの講演

10. 全国農業新聞・全国農業図書を紹介

○全国農業新聞

今年度目標 1,500 部
～農業委員・推進委員 1 人・1 年・1 部純増を！！～

令和 6 年 9 月現在

市町名	目標	部数	目標達成 まで	委員 未購読数
佐賀市	210	169	41	7
唐津市	136	95	41	21
鳥栖市	61	43	18	0
多久市	62	48	14	0
伊万里市	90	64	26	4
武雄市	96	66	30	0
鹿島市	91	66	25	0
小城市	73	52	21	21
嬉野市	69	51	18	3
神埼市	89	65	24	1

市町名	目標	部数	目標達成 まで	委員 未購読
吉野ヶ里町	44	31	13	7
基山町	26	16	10	1
上峰町	22	15	7	2
みやき町	61	27	34	0
玄海町	35	24	11	0
有田町	41	30	11	10
大町町	22	16	6	0
江北町	44	30	14	1
白石町	79	50	29	7
太良町	51	38	13	0
農業会議	98	91	7	
	1,500	1,087	413	85

●全国農業新聞は、農業委員会系統組織が刊行する農業新聞

農業分野全般について掲載。特に農地や担い手、地域計画、農業委員会活動について詳しく掲載。

農業委員会業務の参考になる記事が多く掲載されているので、農業委員・推進委員は是非購読をお願いします。

●全国の農業委員会の活動事例（農業委員会ネットワーク記事）が掲載

地域計画（目標地図）策定の先進事例が掲載。

農業委員会関係者だけでなく、農政部局や関係機関、地域の農業者が購読することで、地域計画・目標地図策定に関する共通認識ができます。

○全国農業図書

新刊図書のご案内

2024年度版 農家相談の手引き

【8月7日刊行】

地域計画、農地転用、認定農業者、簿記、農業者年金等
農家の様々な相談対応に使える！

農業委員・農地利用最適化推進委員をはじめとした地域農業のリーダー等が、農業者から相談を受ける際に制度や施策の要点について説明するために活用できる資料集です。

各種研修会のテキストとして、農業に関するさまざまな制度を学ぶ手引書として幅広く使用できる、多くの情報をわかりやすくまとめた必携図書です。【税込 850 円】

2024年度版 農家相談の手引

価格・経営対策に役立つ 支援制度の資料集



全国農業図書ネットワーク編集
全国農業協会発行

令和6年度版 農家のためのなんでもわかる農業の税制

【7月31日刊行】

この1冊で“農家の税金”はお任せ！

「税金は難しい」と思っている農業者・農業関係者が多いようです。しかし、農業経営に関係する税制のすべてが必要となるわけではありません。税制を理解して適切な納税に努めることは、農業経営の確立・経営管理の高度化にとって、今後ますます重要になると考えられます。

【税込 1,320 円】

農家のためのなんでもわかる 農業の税制

第1部 農業関係税制のあらまし

農業収入や農地等による所得税、法人税、相続税はどのような税金を、
農地取得・売却時、相続者対策時の各種特例制度を交えて解説！

第2部 農地税制等Q&A



全国農業図書ネットワーク編集
全国農業協会 全国農協連合会発行

令和6年度 よくわかる農家の青色申告

【8月6日刊行】

農家向け手引書の決定版！充実の記載例でわかりやすく

収入保険制度をはじめ、農業施策の対象として位置づけられ重要性が高まる青色申告。制度の仕組みと申告手続き、源泉徴収と納付の仕方、簿記記帳の実務、確定申告書の作成から納税までを網羅し、記入例を交えて解説した農家向け手引書の決定版です。

令和6年度版では、所得税の特別税額控除の特例（定額減税）のあらましや農業に関する税制改正事項のほか、令和5年10月にスタートしたインボイス制度の説明と概況も掲載しています。【税込 990 円】

よくわかる 令和6年度版 農家の青色申告



全国農業図書ネットワーク編集
全国農業協会発行 全国農協連合会発行

11. 常設審議委員会結果（令和6年7・8月）

農地法第4条、第5条の規定により県農業委員会ネットワーク機構（佐賀県農業会議）に意見を求められた案件について、常設審議委員会において審議されました。

第100回、第101回の件数及び面積については、以下のとおりです。

<農地法関係処理状況>

○審議件数

回数	開催日	区分	件数
第100回	7月16日	第4条	1
		第5条	4
第101回	8月16日	第4条	0
		第5条	4

○田畑別件数及び面積(㎡)

※田・畑の混合案件があるため、件数の計が一致しない。

回数	開催日	区分	田		畑		計	
			件数	面積	件数	面積	件数	面積
第100回	7月16日	第4条	0	-	1	6,167	1	6,167
		第5条	4	52,411	1	91	4	52,502
第101回	8月16日	第4条	0	-	0	-	0	-
		第5条	2	41,629	2	12,972	4	54,601

月	日	時間	場所	内容
9	6	10:00	佐賀総合庁舎	第4回、第5回農業簿記講習会
	10	13:30	上峰町民センター	農業委員・農地利用最適化推進委員研修会（東部地区）
	11	13:30	鹿島市民文化ホール	農業委員・農地利用最適化推進委員研修会（西部地区）
	17	13:30	佐賀総合庁舎	第102回常設審議委員会
	26	13:30	多久市中央公民館	農業委員会職員地区別研修会（佐城・三神地区）
10	15	13:30	佐賀総合庁舎	第103回常設審議委員会
	25	13:00	東京都	農業委員会職員全国研究会
11	20・21	14:00	マリターレ創世	九州・沖縄ブロック農業委員会女性委員研修会
	27		東京都	農業者年金加入推進セミナー
	28		東京都	全国農業委員会会長代表者集会

農業会議だよりの記事募集について

農業委員・推進委員、農業委員会事務局職員より、この「農業会議だより」への情報提供をお願いします。例えば、①遊休農地解消・新規就農事例、②地域計画策定の取組など地域の話題を募集しています。採用された方には粗品を進呈いたします。

問い合わせは、TEL：0952-20-1810 E-mail：sanoukai@sanoukai.jp

担当：佐賀県農業会議 徳永